

さい がい し へん 災害史編

か こ はっせい さいがい 過去に発生した災害

袋井市防災史によると以下のような災害に見舞われています。

年	台風（○）・水害（○）・突風（■）等風害	地震（★）による被害
1498（明応7） 1605（慶長10） 1680（延宝8） 1707（宝永4） 1854（嘉永7）	○高潮・洪水（命山）（100～300人死亡）	★明応地震（地割れ、津波5m） ★慶長地震 ★宝永地震（35人死亡、津波3m） ★安政東海地震（200人死亡）
1902（明治35） 1911（明治44） 1926（大正15） 1944（昭和19） 1951（昭和26） 1952（昭和27） 1953（昭和28） 1954（昭和29） 1959（昭和34） 1960（昭和35） 1961（昭和36） 1963（昭和38） 1971（昭和46） 1974（昭和49） 1975（昭和50） 1976（昭和51） 1982（昭和57） 1998（平成10） 2002（平成14） 2004（平成16） 2007（平成19） 2008（平成20） 2009（平成21） 2011（平成23） 2012（平成24） 2014（平成26） 2018（平成30） 2019（令和元） 2021（令和3） 2022（令和4）	■竜巻による災害（5人死亡、全壊49戸） ○風水害（台風）大洪水（21人死亡） ○台風による災害（5人死亡） ○台風による災害 ○熱帯低気圧・梅雨前線による災害 ○台風による災害 ○風水害・浪害・高潮 ○伊勢湾台風 ○梅雨前線などによる災害 ○台風による災害 ○豪雨災害 ■竜巻○台風による災害 ○七夕豪雨 ○集中豪雨 ○集中豪雨、■竜巻 ○台風及び秋雨前線による災害 ○秋雨前線による災害 ■竜巻又はダウンバースト ○集中豪雨 ■突風による災害（諸井地区） ■突風による災害（川井地区） ○台風による災害 ○台風・大雨による災害、■突風による災害（笠原地区） ○台風第18号による災害 ○台風第24号による災害 ○豪雨による災害、東日本台風（台風第19号）による災害 ○梅雨前線による災害 ○台風第15号による災害	★東南海地震（143人死亡、1～2mの津波、地割れ、液状化） 袋井市で想定される災害（出典：袋井市地域防災計画） ●風水害 ・台風・集中豪雨・冬の季節風の影響を受けやすいほか、太田川・原野谷川やその支流の中小河川が数多くあり、増水・冠水の危険がある。 ●山崩れ、がけ崩れ ・大規模な発生予想箇所はないが、小規模な発生の危険がある。 ●地震 ・東海地震（M8クラス）、東南海・南海地震（それぞれM8クラス）のほか、南海トラフ巨大地震（M9クラス）などの危険がある。 ●原子力災害 ・万一の事故による原子力施設からの放射性物質及び放射線放出の危険がある。 ●津波 ・地震の発生に伴い津波が生じる危険がある。 ★駿河湾を震源とする地震（M6.5 震度5弱～5強）

（出典：袋井市防災史等）

とうなんかいじしん 東南海地震



倒壊する住宅（上山梨下町）

発生日時 昭和19年12月7日
（13時36分）

規模 M7.9、震度5～7

主な被害（市内）

死者 143人
傷者 184人
住宅被害 全壊2,110戸
半壊992戸
非住宅被害 全壊1,757戸
半壊1,086戸
（出典：袋井市防災史）

たなばたごうう 七夕豪雨



決壊する太田川（延久）

発生日時 昭和49年7月7日
降水量 総降水量（7日9時～8日9時）
73.3mm（市内）

478mm（森町大河内）

主な被害（市内）

人的被害 なし
住宅被害 全壊6戸
半壊11戸
床上103戸
床下180戸
（出典：袋井市防災史）

れいわねんだいふうだいじゅうごう 令和4年台風第15号



増水で流された原野谷川岡野橋（通称もぐり橋）（方丈）

発生日時 令和4年9月23日～24日
降水量 総降水量321.5mm（三川小）
時間最大雨量72.5mm（三川小）

主な被害（市内）

人的被害 死者1名
住宅被害 全壊1戸 半壊以上45戸
一部損壊 212戸
〔被害戸数〕 床上浸水 102戸
床下浸水 150戸
土砂等 6戸
（出典：対応報告資料）

●江戸時代から続く命山と明治時代に作られた海岸林を活かす

いのちやま 命山

延宝8年(1680)に江戸時代最大といわれる台風が襲い、全国各地で大きな被害が生じました。袋井の沿岸部でも高潮の被害で、約300人の死者を出したといわれています。

浅羽33ヶ村を囲む浅羽大囲堤の外側にあたる同笠新田村(大野)と中新田村では、横須賀藩の技術援助を受け高潮の避難地として村の中央に築山を作りました。これが現在命山といわれる遺跡であると指定されています(静岡県指定文化財)。

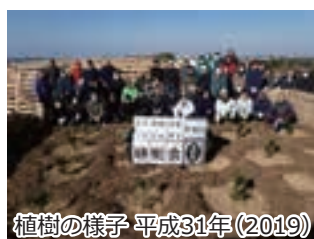


平成23年(2011)に東日本大震災による津波被害を目の当たりにし、袋井市では、地震や津波の際の一時避難場所の確保のために、新たに4つの避難施設の整備を行ない(江川の丘:平成29年、湊命山:平成25年、寄木の丘:平成29年、きぼうの丘:平成28年)、「平成の命山」と呼ばれています。これらの整備により、2,300人の避難者を収容することができるようになりました。

ぼうちようていせいび 防潮堤整備

静岡県の海岸延長約500kmには、広葉樹やクロマツなどで覆われた海岸林があります。遠州灘に多く見られるクロマツ林の多くは、海岸近くに暮らす人々の生活を守るため、明治のころから住民の手で造られてきました。しかし近年、塩害やマツクイムシの被害により枯死が目立っています。

このため、昔から続く防災林の知恵を生かし、L2津波に対応した防潮堤の整備(「静岡モデル」)を推進し、安全性の向上を図っています。



ちす 地図

沿岸部では、東日本大震災以降、津波の被害に対して、昔からの知恵と新しい技術を活かした防災・減災の取り組みを実施しています。

この津波想定図は、国・県が行ったレベル2(発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす、最大クラスの地震・津波)の想定資料をもとに、袋井市が独自に「地震発生とともに海岸砂防林や河川堤防がすべて崩壊した状態」を想定したものです。(平成24年度実施)

